

幌延町



防災

ハザードマップ

避難行動マニュアル

この防災ハザードマップ・避難行動マニュアルは、地震が発生した場合の津波浸水想定や、天塩川・問寒別川が大雨などで増水し、町内で堤防が決壊した(こわれた)場合の洪水浸水想定に基づいて、浸水する範囲とその程度や、各地区の指定避難所・指定緊急避難場所などを示した地図と、気象情報の入手方法や日頃からの備え、災害が発生した場合の避難行動などを示したマニュアルです。

この地図に掲載されている浸水想定区域図は、最大クラスの津波が発生した場合や最大クラスの降雨により天塩川および問寒別川が氾濫した(あふれた)場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたもので、平成28年度に見直された、最悪の事態を想定した事象を反映しています。状況によっては、地図に示した区域以外のところも浸水することがありますので、注意してください。

なお、水害の恐れがあるときは、町が避難勧告や避難指示(緊急)を発令しますので、速やかに避難してください。

また、あなたが住んでいる地区における浸水など、大雨による災害が発生する場所や状況を日頃から把握し、雨の降り方や浸水の状況によって危険を感じた場合は、早めに自主的な避難を心がけましょう。

いざというときに備え、家族の集合場所や家族の連絡先などを書き込み、使いやすい場所に保管しておきましょう。

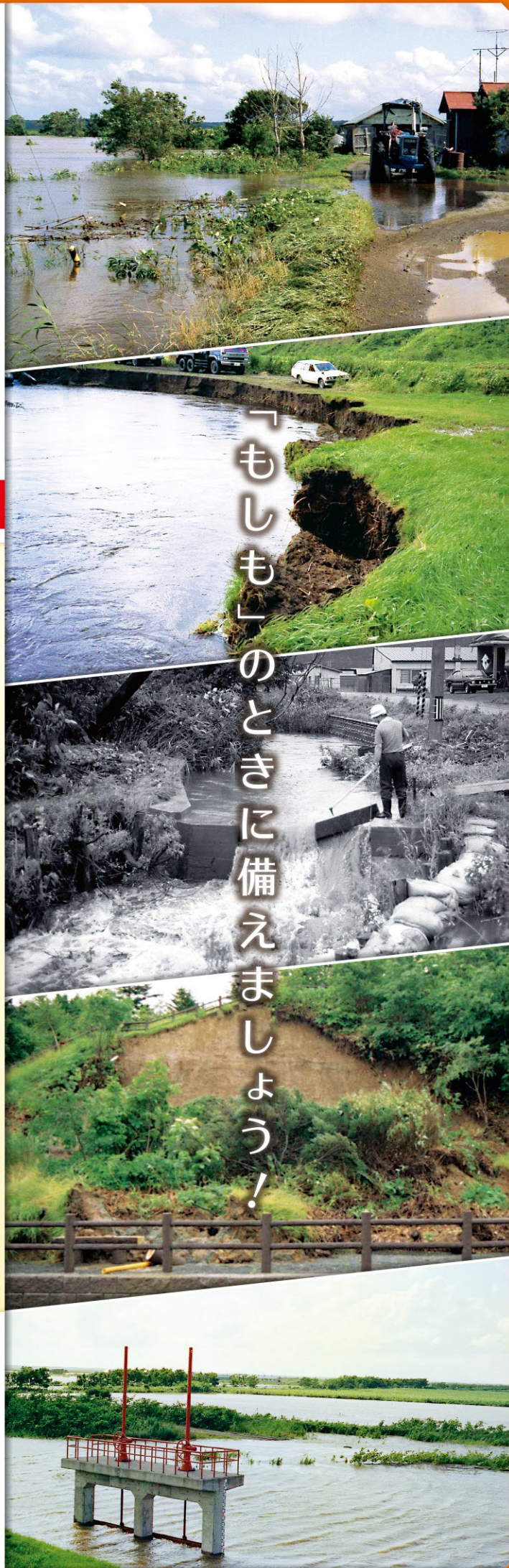
平成29年10月



幌延町役場

〒098-3207 北海道天塩郡幌延町宮園町1番地1

TEL. 01632-5-1111



「もしも」のときに備えましょう!

わが家の防災メモ

家族の集合場所

災害時の緊急連絡先

家族の名前	生年月日	血液型	メモ (病症・病歴、携帯電話番号、勤務先など)
	大・昭・平 年 月 日	型 Rh(+ / -)	
	大・昭・平 年 月 日	型 Rh(+ / -)	
	大・昭・平 年 月 日	型 Rh(+ / -)	
	大・昭・平 年 月 日	型 Rh(+ / -)	
	大・昭・平 年 月 日	型 Rh(+ / -)	
	大・昭・平 年 月 日	型 Rh(+ / -)	

安否情報などを家族や知人に知らせる方法を確認しておきましょう!

災害用伝言ダイヤル **171**

大規模な災害が発生し、安否確認等の電話によって電話回線が混雑し、電話がつながりにくい状況でも、伝言の録音・再生により、被災地内の家族や親戚・知人等と連絡を可能にする「声の伝言板」です。



詳しい内容はNTTのホームページで確認してください

ホームページ

<http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>

171 または NTT

検索

携帯電話災害用伝言板



大規模な災害が発生した場合に、各携帯電話会社から提供される災害用伝言板です。携帯電話やスマートフォンから安否情報の登録・確認ができます。

※災害時以外は提供されていません

気象情報の入手先

気象や防災に関する情報はテレビやラジオのほか、以下のホームページなどからも入手できます。

気象情報	気象庁	パソコン版	http://www.jma.go.jp/jma/
	稚内地方気象台	パソコン版	http://www.jma-net.go.jp/wakkanai/
雨量・水位情報	国土交通省 川の防災情報	パソコン版	http://www.river.go.jp/
		スマートフォン版	http://www.river.go.jp/s/
土砂災害警戒情報	北海道河川砂防課	パソコン版	http://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/
		スマートフォン版	http://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/sp/

気象情報(特別警報・警報・注意報)の見方

気象庁では「警報・注意報」と「警報級の可能性」を色分けした表で示し、大雨や暴風などに警戒や注意が必要な時間帯を分かりやすくお知らせしています。これらの情報は気象庁ホームページの各市町村ごとの「気象警報・注意報」のページ上で表示されています。

幌延町		今後の推移(特別警報級 警報級 注意報級)										備考・関連する現象
発表中の警報・注意報等の種別		○日			○日							
		15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18		
	1時間最大雨量(ミリ)	40	50	70	110	110	70	50	30	30		
	(浸水害)											以後も注意報級 浸水警戒
	(土砂災害)											以後も警報級 土砂災害警戒
	(洪水害)											以後も注意報級 氾濫
	風向風速 (矢印・メートル)	陸上										以後も注意報級
		海上										以後も注意報級
	波高(メートル)	4.0	6.0	8.0	11.0	11.0	6.0	6.0	4.0	3.0	うねり	
	潮位(メートル)	0.7	0.7	1.5	4.0	4.0	3.0	2.0	1.5		ピークは○月○日頃	
	雷										竜巻	

【各種別についての凡例】

- : 特別警報
- : 警報
- : 注意報
- : 今後特別警報に切り替える可能性が高い警報
- : 今後特別警報に切り替える可能性が高い注意報
- : 今後警報に切り替える可能性が高い注意報

表で示した時間帯以降に警報級や注意報級の現象が続く可能性や、発表中の警報・注意報に関連する現象について示しています。

発表中の警報・注意報等の種別を表しています。
凡例表に示した背景色により、警報や注意報などの発表状況が一目でわかります。

明日までの3時間ごとの現象の推移を示す表です。
背景色(:特別警報級、 :警報級、 :注意報級)により、警報級の現象を予想しているなどの状況を一目で見るができます。表中の数字は量的な予想値です。また、表中の矢印は風向を示しています。例えば、暴風○日0-3時の状況 は、南の風50メートルで特別警報級の現象を予想していることを表しています。

平成○年○月○日○時○分 稚内地方気象台発表 北海道宗谷地方の警報級の可能性
宗谷地方では、○日までの期間内に、大雨、暴風、波浪警報を発表する可能性が高い。

北海道宗谷地方	警報級の可能性						
	○日		○日		○日	○日	○日
	明け方まで	朝~夜遅く	○日	○日			
種別	18-6	6-24					
大雨	[高]	[高]	-	-	-	[中]	
大雪	-	-	-	-	-	-	
暴風(暴風雪)	[高]	[高]	-	-	-	-	
波浪	[高]	[高]	-	-	-	-	

明日までは時間帯を区切って、明日以降は1日単位で、大雨・大雪*・暴風(暴風雪*)・波浪について、警報を発表するような現象発生の可能性を示します。
※寒候期のみ

【凡例】

- [高] : 警報発表中、または、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況
- [中] : [高]ほど可能性は高くないが、警報を発表するような現象発生可能性がある状況

雨の降り方と災害の危険性

雨の降り方は、降っている雨の量によって5つの段階に分類され、雨の強さ・降り方によって災害の危険性が伴う場合があります。どのくらいの雨が降るとどのような現象が起きるのかを把握し、防災対策につとめましょう。

雨の強さと降り方



やや強い雨

1時間に
10~20mm未満

- ザーザーと降る雨。

地面一面に水たまりができ、地面からの跳ね返りで足元がぬれ、話し声が聞き取りにくくなります。

この程度の雨でも長く続く場合は注意が必要です。



強い雨

1時間に
20~30mm未満

- どしゃ降り（どしゃ降り）の雨。

傘をさしてもぬれてしまうほどの雨で、運転中はワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れなどの心配があります。



激しい雨

1時間に
30~50mm未満

- バケツをひっくり返したような雨。

道路が川のようになり、山崩れ・がけ崩れが起きやすくなるため、危険地帯では避難の準備が必要になります。ハイドロプレーニング現象が起きやすく、高速走行は危険です。



非常に激しい雨

1時間に
50~80mm未満

- 滝のように降る雨。（ゴーゴーと降り続く）

河川の氾濫をはじめ、土石流などが起きやすく、多くの災害が発生する恐れがあります。傘は全く役に立たなくなり、車の運転も危険です。



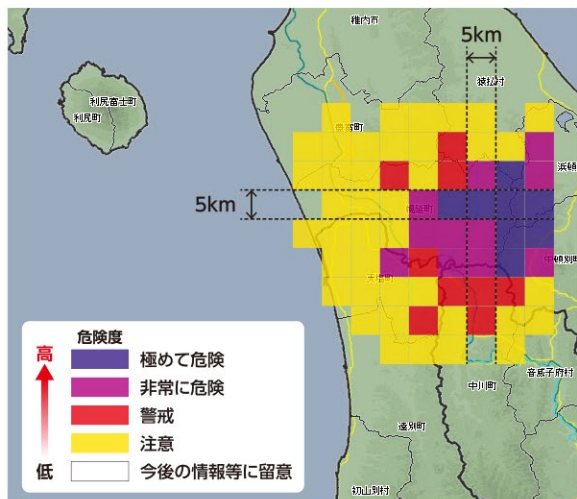
猛烈な雨

1時間に
80mm以上の雨

- 息苦しくなるような圧迫感のある雨。

雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要となります。

土砂災害警戒判定メッシュ情報について



土砂災害警戒判定メッシュ情報は、土砂災害警戒情報および大雨警報等を補足する情報です。5km四方の領域（メッシュ）ごとに土砂災害発生危険度を5段階に判定した結果を表示しています。

避難にかかる時間を考慮して、危険度の判定には2時間先までの土壌雨量指数等の予想を用いています。

土砂災害警戒情報や大雨警報（土砂災害）が発表されたときには、土砂災害警戒判定メッシュ情報により、対象市町村内で土砂災害発生危険度が高まっている詳細な領域を把握することができます。土砂災害発生危険度が高まっている領域にお住まいの方は、土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域等の外の安全な場所へ、早めの避難を心がけてください。

詳細はこちら <http://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>

日頃からの備え

災害はいつ起きるかわかりません。

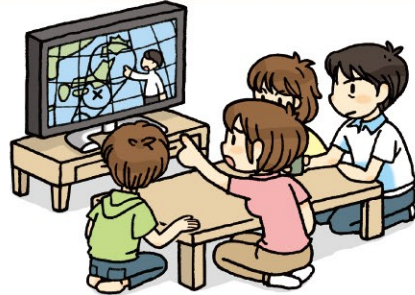
しかし、災害による被害は日頃の備えによって減らすことが可能です。いざというときに慌てないように、「自分でできること」「家族でできること」などについて考え、防災意識を高めることが大切です。

家族で話し合い



家族で災害時の危機管理対策についての話し合いをしましょう。火災時に火を消す人や非常持ち出し品を管理する人などの役割分担を決めたり、家族がバラバラになったときの連絡方法や、集合場所などを決めておきましょう。

天気予報や気象情報に注意



初夏から秋にかけては、台風や前線の影響で、大雨、洪水、暴風、高潮による自然災害が発生しやすい季節です。しかし台風や豪雨はある程度、進路や規模などを予測できます。普段から気象情報に十分注意しましょう。

避難所等の確認



自宅周辺の緊急避難場所や避難所はどこなのか、事前に確認しておきましょう。また避難所まで安全に通行できるか、危険な箇所がないかを実際に歩いて避難経路をチェックしてみましょう。

家の内外を点検



家の周りに風で飛ばされそうなものはないか、窓や網戸のガタつきはないか、屋根材や壁は傷んでいないか、家具の配置は適切かなど自宅の備えを確認し、日頃から安全・減災対策に努めましょう。

ご近所にも気配りを



災害時には近隣の住民同士の協力が必要です。自分の家や家族だけではなく、地域全体にも目を向けましょう。特に一人暮らしのお年寄りや病気の人などは、普段からの気配りが大切です。

備蓄品・非常用持ち出し品の準備



「備蓄品」とは、支援が届くまでの数日間を自活できるように準備しておくものです。備蓄品とは別に、避難する際に必要最低限のものをすぐ持ち出せるように袋に入れて用意しておくのが「非常用持ち出し品」です。

非常用持ち出し品チェックリスト

もしもの災害時にすぐ避難できるよう非常用持ち出し品(袋)を準備しておきましょう。中身は自分にとって必要なものを、家族がいる場合は1人分ずつの用意があると安心です。両手が使えるリュックなどを使い、玄関や寝室などに置いておけば、いつでも持ち出すことができます。

安心を備える「日常備蓄」

災害が発生した場合に備え、少なくとも3日分程度を自活できるよう、食料品・飲料水などを多めに買い置きしておく「日常備蓄」で、安心も一緒に備えましょう。

☑ 必要なものを書き込み、チェックしてみましょう!

貴重品

- 現金(10円玉を含む)
- 預金通帳
- 印鑑
- 健康保険証(コピーでも可)
- 運転免許証(コピーでも可)
- 重要書類
- 親戚・知人等の連絡先メモ
- 家族写真(家族とはぐれたときなどに便利)



※貴重品や重要書類はコピーをとったり、必要事項をメモしたものを入ると良い。



情報収集用品

- 携帯ラジオ
- 乾電池
- 筆記用具(日光や雨に強いもの)
- スマートフォンや携帯電話の充電器

非常食・飲料水

- 飲料水
- 乾パン・ビスケット
- ゼリー飲料や栄養補助食品
- チョコレート・あめなど

※食事ではなく、避難行動時のエネルギー補給ができるもの。

衣料品・防寒対策用品

- 雨具(レインコート・ポンチョ)
- レジャーシート・保温シート
- 使い捨てカイロ
- 着替え・防寒具

※雨などに濡れた場合に備えて着替えは1セット分を用意。圧縮下着や使い古したものなどを旅行用の圧縮袋に入れておくとコンパクトに収納できる。

避難用品

- 底の厚い靴(登山靴やスニーカーなどひもで結ぶもの)
- 手袋・軍手(頑丈な作業用手袋や革手袋が良い)
- ヘルメット・防災頭巾
- 懐中電灯・ヘッドライト
- ホイッスル
- ハザードマップ・地図



救急・衛生用品

- ばんそうこう
- 消毒液
- 包帯・三角巾
- ガーゼ・脱脂綿
- マスク
- ピンセット・毛抜き・はさみ
- 常備薬(風邪薬・傷薬など)
- 持病薬
- おくすり手帳(コピーや薬のメモでも)
- アルコール除菌(シートやジェルなど)
- ティッシュ
- ウェットティッシュ
- ビニール袋
- 携帯トイレ
- 生理用品



個別必需品

- 粉ミルク・ほ乳びん
- ベビーフード・おやつ
- 紙おむつ・おしりふき
- 絵本・おもちゃ
- 抱っこひも
- 母子手帳(コピー)
- 大人用紙おむつ
- 介護用品
- 予備メガネ・補聴器
- 入れ歯
- 携帯用杖 など



災害時の情報入手方法と避難行動の基準

幌延町ではIP告知端末機や防災行政無線をはじめ、複数の手段を用いて災害時の情報発信を行っています。災害時に大事なものは「正しい情報」です。もしものときに備えて、情報収集方法をあらかじめ知っておきましょう。

	幌延町ホームページ	防災情報や災害情報を随時更新しています。 http://www.town.horonobe.hokkaido.jp/	<input type="text" value="幌延町"/> <input type="button" value="検索"/>
	広報車	緊急時は、広報車で町内を巡回します。	
	防災行政無線	屋外のスピーカーを通して緊急情報等をお知らせします。	
	IP告知端末機	緊急地震速報や全国瞬時警報システム(Jアラート)からの情報、町からの避難勧告など、特に重要な内容を放送しますので、常に電源を入れておきましょう。	
	緊急速報メールなど	幌延町の緊急性の高い災害・避難情報を町内エリアにある携帯電話端末(NTTドコモ・au・ソフトバンク)に一斉無料配信します。	

災害による被害が拡大する恐れがあり、住民への危険が迫ったときには、状況に応じて町災害対策本部から以下の避難情報が発令されます。避難情報が発令された場合は速やかに行動しましょう。

避難準備・ 高齢者等避難開始	 ！災害発生の恐れがあるとき 災害の発生する可能性が高まった状況であり、災害時要配慮者等、特に避難行動に時間を要する人が避難行動を開始しなければならない段階です。	 高齢者・障害のある方・乳幼児等、特に避難行動に時間を要する人(要配慮者)や災害危険区域の方などは、指示された避難所へ避難行動を開始しましょう。上記以外の人についても、避難準備を開始しましょう。
避難勧告	 ！人的被害の発生する可能性が明らかに高まったとき 被害の拡大が予想され、事前に避難を要すると判断された場合に発令されます。避難のための立ち退きを勧め、促す行為です。	 お互いに助け合って、指示された避難所に速やかに避難を始めましょう。要配慮者の方などは避難を完了してください。
避難指示(緊急)	 ！災害が発生する危険性が非常に高いと判断されたとき 災害の危険が目前に切迫している場合に発令されます。「勧告」よりも拘束力が強く、直ちに避難を求める行為です。	 直ちに避難を完了してください！ 指定された避難所に直ちに避難しましょう。対象地区の方全員が必ず避難をしてください。避難が遅れ、十分な時間がない場合は、命を守る最低限の行動を取ってください。

これらの基準によらず、気象や水位の情報を総合的に判断して避難勧告等を発令する場合がありますので、役場等からの情報に十分ご注意ください。

災害発生時の避難行動

町から避難勧告や避難指示（緊急）などがあった場合には、直ちに指示された避難所に避難しましょう。避難の際は、自分で判断し自分の身は自分で守る「自助」、近隣地域で声をかけ合い助け合う「共助」を基本とし、余裕を持って早めの対応を心がけてください。

正確な情報収集と自主的避難を



テレビ・ラジオ、緊急速報メールなどで最新の気象・災害情報入手しましょう。避難勧告や指示がある場合はもちろん、危険を感じたら自主的に避難準備を始めましょう。

避難する前に



あらかじめ避難所を確認しておき、避難する前にガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落としましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。

助け合って避難を

外出先では係員の指示に従う!



できる限り1人だけの避難は避けましょう。お年寄りや子ども、病気の人などは避難に時間がかかる場合があり、早めの避難が必要です。家族だけではなく、近所の人との避難にも協力しましょう。

車での避難は控える



避難の原則は徒歩です。自動車での避難は緊急車両の妨げや渋滞等のおそれがあるため、できる限り控えましょう。また、自動車を堤防や道路に放置しないようにしましょう。

安全に避難する



塀ぎわ、狭い道、がけや川のそばは避けて避難しましょう。地震の際は余震に注意し、落下物やガラス片、自動販売機などにも気をつけ、垂れ下がった電線には触れないようにしましょう。

動きやすい服装で避難を

ヘルメットや防災頭巾などで頭を保護

荷物は少なく、非常持ち出し品は両手が空くリュックがオススメ



軍手や革手袋などで手を保護

長袖、長ズボンで

裸足や長靴は避け、履き慣れたものをひもで締められる底の厚い運動靴などが良い
(踏み抜き防止インソール(中敷き)を入れても良い)

段差や溝にも注意!

大雨・冠水時の避難



冠水した場合、水の流れていなくても歩ける深さの目安は、ひざ下(約30cm)くらいまでです。水の深さが腰まであったり、浅くても水の流れて速い場合は無理をせず、高い場所で救助を待ちましょう。

避難行動〈風水害編〉

河川氾濫の危険レベル



水防団待機水位

(指定水位)

大雨などにより、この水位を越えると水防関係機関が水防活動の準備に入ります。

氾濫注意水位

(警戒水位)

洪水注意報の基準となり、災害の恐れがある水位です。この水位を越えると水防関係機関が出動します。

避難判断水位

避難準備・高齢者等避難開始の発令の基準となる水位です。

氾濫危険水位

(特別警戒水位)

避難勧告発令の基準となり、家屋浸水等の被害を生じる氾濫の恐れがある水位です。

テレビ、ラジオなどの最新の気象・洪水情報に注意し、警戒を強めてください。また、避難に時間を要する人(高齢者、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難の準備を整えましょう。

避難に時間を要する人とその支援者は避難を開始し、その他の人は避難の準備を整えましょう。

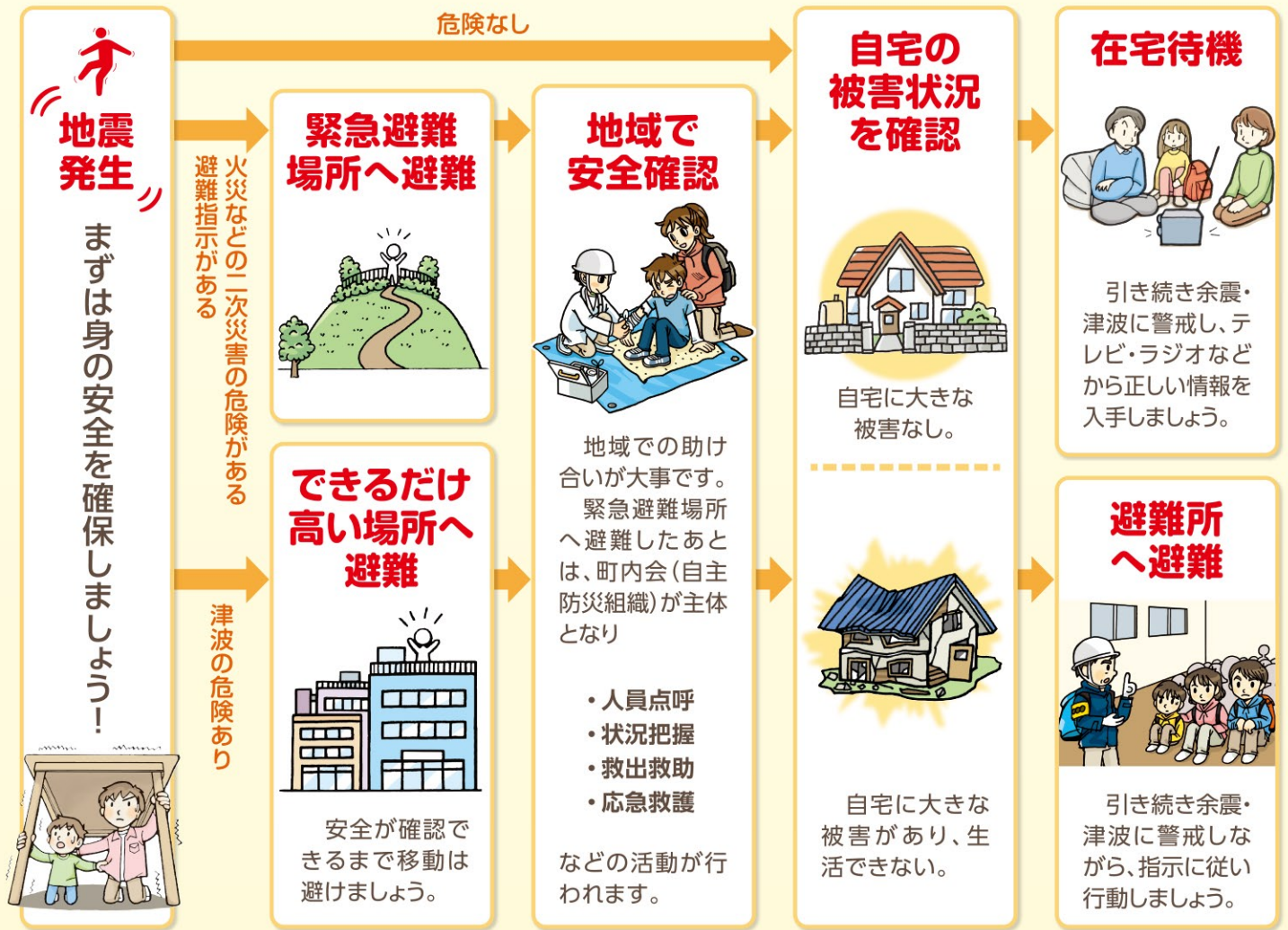
避難の際は河川のそばやがけの近くなど、危険な場所は通らないようにしましょう。

速やかに避難所へ避難しましょう。

避難経路の浸水や風雨の強まりなど、外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。



避難行動〈地震編〉



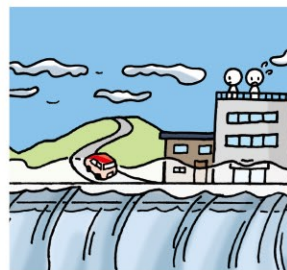
○津波の注意点

津波注意報・警報の種類

予想される津波の高さ(発表基準)	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害の恐れがある場合。

地震が発生し、津波による災害が予想された場合、地震発生後およそ3分で警報及び注意報が発表されます。

「遠く」よりも「高く」へ!



海岸の地形などによって予想された津波の高さを超える津波が発生する場合があります。すでに浸水が始まっていて安全な場所に避難できないときは可能な限り高い所へ避難しましょう。

津波のスピードは速い!



津波の速度は海岸付近でも時速36km(秒速10m)程度もあるので、津波を見てから避難を始めたのでは間に合いません。正しい情報を入手し、早めの避難を心がけましょう。

海岸・河川から離れる!



地震を感じなくても津波警報が発表されたときは、直ちに海岸・河川から離れ、安全な場所に避難しましょう。また、注意報・警報が解除されるまでは海岸・河川には近づかないようにしましょう。